

## 「居場所の考察」 中谷裕子

障害者として生まれた事により、生まれた場にすら居場所を求め得ない人々が居る。その中には、何年にも渡って家に帰っていない、あるいは、帰る場所すらないといった人も居る。更に、障害者自立支援法は、こうした人々の暮らす施設さえも奪っている。どうしたら、障害者の人々が一般社会において居場所を求め得るのだろう。

以上に対する疑問から、本設計のテーマは、障害者の居場所を地域社会において見いだそうと彼女は考えた。

具体的な計画として、少子化により児童数の減少した小学校の空き教室に対して、障害者の居場所を設定。また、小学校という地域施設の特徴を鑑み、ここに地域住民も集まって来る事の出来る施設を併設した。この事から、障害者、小学校児童、地域住民が分け隔て無く、一緒になって活動を行える「居場所」を提案するものである。

あらゆる人々が分け隔て無く集まれる場所の提案は、実は観光デザインにおいて、最も根源的なテーマである。



## 「Design : ORCHESTRA」 岡田考博

彼は卒業制作にあたり、自分がこれまでに積み重ねてきた観光デザイン学科での学び全体を活かすために、どんなテーマを設定すべきかを考えることから始めた。

観光デザインで学んできたことは、一言でいえば、フィールドワーク、調査、コンセプト作り、造形表現に至る「総合的なデザイン」の取り組みである。ここから、「デザイン制作会社の構想」を自分なりに表現することに行き着き、「デザイン・オーケストラ」というデザイン制作企業を想定し、ネーミング、ロゴマーク、文字、色彩計画から、オリジナルの文具雑貨のプロダクトまで全体的なデザイン計画をまとめあげた。

文具デザインは、ユーザーをデザインが奏でる交響曲へ導入する「チケット」を造形の基本コンセプトとし、チケット切り離しのミシン目や、チケットに缺みを入れた形を連想させる斜目のカットラインなど、ほどよい遊び心を取り入れ、魅力的な造形を作り上げ、ビジュアルデザインは、白を基調にして、細いカラーラインをアクセントにした清潔感のある計画になっている。

観光デザイン学科の4年間で学んだ、コンセプトを明確にする作業と、それを具体的に表現する技術など、細部にわたり粘り強い制作態度が高く評価できる作品である。

